

2021 年総合生活改善 第 4 回中央戦術委員会 ＜確認事項＞

2021 年 3 月 23 日
自動車総連

＜スローガン＞

新たな時代に向けて 高めよう！職場の力

自動車総連は、第 4 回中央戦術委員会において以下の通り、自動車総連一体となって取り組みを進めていくことを確認した。

■回答引き出し状況

＜月例賃金＞

- ・個別賃金については、652 単組が要求し、現時点において 7 単組が回答を引き出している。
- ・平均賃金については、賃金カーブ維持分と賃金改善分を合わせた引き上げ額全体の平均は 4,822 円となっている。
- ・また、賃金改善分の獲得状況を人数規模別で見ると、賃金改善分の獲得割合・獲得額ともに 300 人未満の中小単組が大手を上回る。
- ・加えて、個別課題の解決に向け、賃金制度改定や定年後再雇用者制度の見直し議論を実施することを確認した単組や、賃金のあり方、働き方を含めた中長期的な課題を協議することを確認した単組等、今後の継続的な取り組みに繋げる動きが着実に見られる。

＜年間一時金＞

- ・年間協定による回答を引き出した 99 単組における年間回答月数の平均は 4.71 ヶ月であり、その内、51 単組が 5 ヶ月以上を獲得している。

＜働き方に関する取り組み＞

- ・自動車産業の変革期やコロナ禍による変化を踏まえ、多くの単組において、各職場の課題解決や生産性向上、そして新たな時代の働き方に向けた積極的な議論が行われ、職場課題の解決に向けた取り組みを加速させることができた。

＜企業内最低賃金＞

- ・6 単組において協定締結水準の引き上げが行われ、その平均額は 165,417 円となっている。

＜非正規雇用で働く仲間の取り組み＞

- ・17 組合において取り組みの進展があり、処遇改善などの回答を引き出している。賃金の有額回答があった単組の平均額は時給ベースで 3.7 円となっている。同じ職場で働く仲間の意欲・活力及び一体感の向上や、同一価値労働同一賃金の取り組み前進に繋がるなど、労働組合の社会的役割の観点からも、価値ある結果を引き出している。

■確認事項

<交渉状況>

- ☆ 自動車総連全体では、現時点で全体の15.1%にあたる158単組で妥結又は妥結方向に至っている。
- ☆ 自動車産業の変革期およびコロナ禍という危機を乗り越えていくために労使で充実した議論を行った結果、「賃上げを軸とした人への投資」の流れを継続できているものと受け止める。また、「目指すべき賃金水準」の実現に向けた賃金課題や職場課題、働き方の改善に向けた取り組みの必要性を労使で共有し、次年度以降の取り組みに繋げることができた。
- ☆ 一方、獲得水準に目を向ければ、厳しい交渉環境を背景に賃金改善分獲得組合は昨年より減少している。こうした傾向はこれから本格化していく中堅・中小単組の交渉においても継続することが想定されるため、下記観点に基づき取り組みの追い上げを図っていく。

<今後の進め方>

各単組・労連および自動車総連本部は、交渉環境の厳しさを改めて認識した上で、「賃上げを軸とした人への投資」の流れを確実に継続すべく、最後の最後まで自動車総連一体となって取り組むこととする。

○全体

- ・中堅・中小単組の取り組みにおいては、改めて主要単組の回答引き出し状況を踏まえ、第3回中央戦術委員会(3/13)にて確認した「回答引き出しに向けた基本態度」のもと取り組み、「最大限の回答」を引き出す。
- ・とりわけ、中長期での取り組みが必要な賃金課題や職場課題については、解決の必要性について労使の認識共有を図り、次年度以降の取り組みに確実に繋げていく。
- ・また、非正規雇用で働く仲間の取り組みについても、労働諸条件の維持を強く意識しつつ、同じ職場で働く仲間の意欲・活力の向上に繋げていく。
- ・解決時期については、集中的な回答引き出しによって共闘効果を高めるべく、自動車総連全体の目標である3月末決着を強く意識して取り組む。回答引き出しが遅れる場合においては、一日でも早い解決に取り組み、遅くとも4月末までには全ての単組での決着を図る。

○各単組

- ・現在も交渉が続いている全ての単組は、「回答引き出しに向けた基本態度」に則り、「自らの要求」に対し十分納得しうる最大限の回答を引き出すべく、最後の最後まで交渉を追い上げる。

○各労連及び自動車総連本部

- ・各労連は、加盟する中堅・中小単組における「最大限の回答」引き出しに繋げていくべく、具体的な戦術やサポートを展開する。
- ・自動車総連本部は、各単組・労連の取り組みを後押しすべく、組織内外に対し、回答引き出し状況について、タイムリーかつ効果的な情報発信を行う。

■ 回答引き出しに向けた基本態度 (第3回中央戦術委員会<確認事項>再掲)

☆自動車総連は、最大限の回答を引き出すべく、自動車総連一体となって最後の最後まで粘り強く交渉を追い上げていくことをここに確認する。

<月例賃金(個別賃金要求・平均賃金要求)>

- 全ての単組は、自らの要求に基づく「賃上げを軸とした人への投資」の必要性について労使の認識を合わせた上で、その要求に対し十分納得しうる最大限の回答を引き出すべく、交渉を追い上げる。
- また、中長期での賃金引き上げの必要性について労使の認識共有を図り、専門委員会の設置等を通じて次年度以降の取り組みに確実に繋げる。
- 自動車総連本部及び各労連は、各単組の「賃上げを軸とした人への投資」を求める強い意思を形にすべく、具体的な戦術・サポートの展開、回答引き出し状況の速やかな収集・分析・共有等を行う。

<働き方の改善>

- 組合員の働きがいの向上や企業の競争力強化、自動車産業の永続的発展に向けて、「産業の変革期に負けない働き方」「コロナ禍を踏まえた新たな時代の働き方」に繋がる回答を引き出すとともに、今後の継続的な取り組みに確実に繋げる。

<年間一時金>

- 産業の変革期およびコロナ禍における組合員の努力・頑張りに報い、今後の取り組みに向けた更なる意欲・活力に繋げていくためにも、満額獲得に向け、最後まで押し込む。
- 組合員の生活の安心・安定感の観点から、年間協定にとことんこだわる。
また、業績を意識した付帯事項付き回答は望ましくないとのスタンスのもと取り組む。

<企業内最低賃金>

- 企業内最低賃金が自社の魅力向上・人材確保のみならず、自動車産業や社会全体の底上げ・底支えに繋がることを強く意識し、協定の新規締結・水準の引き上げ・対象者の拡大に向けた最大限の回答を引き出す。
- とりわけ協定未締結単組については、協定の新規締結を確実に実現させる。

<非正規雇用で働く仲間に関する取り組み>

- 同一価値労働同一賃金を強く意識し、労働諸条件改善の取り組みが一步でも二歩でも前に進む回答を引き出す。
- 賃金改善については具体的な有額での回答引き出しを図り、同じ職場で働く仲間の意欲・活力の向上に繋げていく。

<早期決着に向けた取り組み> ※2月8日 第1回中央戦術委員会<確認事項>再掲

- 自動車総連全体のヤマ場を3月17日(水)から3月26日(金)までとし、この間で、各単組・労連は、集中的な回答引き出しに最大限努力する。
- 主要単組における集中回答日は3月17日(水)とし、午前中に要求項目の同時回答を引き出す。
- 全ての単組は3月末解決を目指し、遅くとも4月末までの解決に強力に取り組む。